

- 問1 弥生時代に大陸から伝わった青銅器の一つで、釣鐘（つりがね）のような独特の形をしており、主に近畿地方を中心に発見されている、農耕の祭祀（さいし）に使われたと考えられている道具の名称として適切なものを次の中から選びなさい。（2020年 山口県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 銅矛 | 2. 銅鐸 | 3. 銅鏡 | 4. 銅剣 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問2 3世紀の日本において、30余りの小国を従えていた邪馬台国の女王は、中国の王朝である魏に使者を送りました。この女王が魏の皇帝から授かった称号として正しいものはどれか。（2018年 福島県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|---------|--------|----------|
| 1. 漢委奴国王 | 2. 親魏倭王 | 3. 倭王武 | 4. 征夷大將軍 |
|----------|---------|--------|----------|
- 問3 弥生時代の代表的な遺跡である佐賀県の吉野ヶ里遺跡について、その集落の構造を説明した記述として最も適切なものを次から選びなさい。（2023年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 収穫した稲をネズミや湿気から守るため、床を高くした高床倉庫が集落の中心に配置されている。 | 2. 外敵の侵入や攻撃を防ぐため、集落の周囲に深い溝（濠）を掘り、さらに柵を巡らせている。 | 3. 交易を円滑にするため、海岸線に沿って長い石垣が築かれ、港の機能を中心としている。 | 4. 大規模な公共事業を行うため、周囲の山を削って平地を作り、規則正しく住居が並んでいる。 |
|---|---|---|---|
- 問4 邪馬台国の女王である卑弥呼は、239年に中国の魏へ使節を送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かりました。卑弥呼がこのように中国の王朝と外交関係を結んだ主な政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 徳島県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--------------------------------------|--|---|
| 1. 魏の皇帝の権威を利用することで、対立していた狗奴国などに対して自国の優位性を示すため | 2. 魏から金銀などの貴金属を輸入し、国内で独自貨幣の発行を開始するため | 3. 朝鮮半島南部にある任那の日本府を維持するために、魏へ軍事支援を要請するため | 4. 魏で施行されていた律令制度を学び、日本で最初の本格的な法治国家を建設するため |
|---|--------------------------------------|--|---|
- 問5 3世紀前半の倭（日本）について記した中国の歴史書である「魏志倭人伝」には、多くの小国を従えた強力な勢力の存在が記されています。この勢力の名称と、周辺の小国を連合させて治めていたとされる女王の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2026年 大阪府公立入試 類似）
- | | | | |
|----------------|--------------|---------------|-------------|
| 1. 邪馬台国 — 推古天皇 | 2. 奴国 — 持統天皇 | 3. 邪馬台国 — 卑弥呼 | 4. 奴国 — 卑弥呼 |
|----------------|--------------|---------------|-------------|
- 問6 3世紀の中国の歴史書には、当時の倭（日本）の様子が詳しく記されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が亡くなった際、直径100余歩（約150メートル）もの大きな塚が造られ、100人余りの奴隷と一緒に埋められたといった、当時の社会の様子や埋葬の風習を伝えている資料の名称を選びなさい。（2024年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|------------|-------------|------------|
| 1. 「隋書」倭国伝 | 2. 「漢書」地理志 | 3. 「後漢書」東夷伝 | 4. 「魏志」倭人伝 |
|------------|------------|-------------|------------|
- 問7 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏に使いを送り「朝貢」を行った政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 岩手県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 中国の優れた文字（漢字）を学び、律令制度に基づいた中央集権国家をいち早く形成するため | 2. 中国の進んだ稲作技術を独占し、食料生産を安定させることで人口を増やすため | 3. 中国から仏教を公式に導入することで、宗教の力を用いて争いの絶えない国内を鎮めるため | 4. 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため |
|---|---|--|--|
- 問8 佐賀県の吉野ヶ里遺跡のような「環濠集落」が弥生時代に多く見られるようになった背景として、当時の社会状況を説明した記述として最も適切なものを次から選びなさい。（2023年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 大規模な祭祀を行う場所を確保するため、居住区と神聖な場所を区別する必要が生じたため。 | 2. 狩猟や採集を中心とした生活から、山岳地帯に拠点を移して生活を守るため。 | 3. 稲作が始まり、余剰生産物や土地・水をめぐる集落間の争いが激しくなったため。 | 4. 大陸から馬や牛などの家畜が導入され、それらが逃げ出さないように囲いを作る必要があったため。 |
|---|--|--|--|
- 問9 紀元1世紀、倭の奴国の王が大陸へ使節を送り、後漢の皇帝から授けられたとされる金印について、その事実が記述されている中国の歴史書として正しいものはどれですか。（2023年 富山県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------|------------|------------|------------|
| 1. 「後漢書」東夷伝 | 2. 「魏志」倭人伝 | 3. 「宋書」倭国伝 | 4. 「隋書」倭国伝 |
|-------------|------------|------------|------------|
- 問10 弥生時代に製作された銅鐸や銅鏡などの青銅器について、その主な役割や目的として最も適切な説明はどれか。（2026年 新潟県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|---|
| 1. 稲作の豊穡などを願うための祭祀の道具として用いられた | 2. 大陸との交易において、通貨の代わりとなる経済的な手段として用いられた | 3. 集落間の争いにおいて、敵を攻撃するための強力な武器として用いられた | 4. 木材を加工したり土を掘り起こしたりするための実用的な工具として用いられた |
|-------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|---|
- 問11 日本列島と朝鮮半島の位置関係を示した地図において、九州地方の北部（現在の佐賀県付近）に位置し、大陸との交流や当時の防御の様子を今に伝える弥生時代の代表的な遺跡はどれか、選びなさい。（2020年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|---------|-----------|---------|
| 1. 三内丸山遺跡 | 2. 登呂遺跡 | 3. 吉野ヶ里遺跡 | 4. 岩宿遺跡 |
|-----------|---------|-----------|---------|
- 問12 弥生時代、稲作が西日本から東日本へと普及して食糧の蓄えができるようになると、各地で土地や水をめぐる争いが起こり、小さな国々が誕生しました。こうした中、倭の奴国の王が中国の王朝へ使いを送った目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。（2022年 広島県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 土偶を用いた独自の祭祀を中国に認めてもらうことで、大陸での宗教的な影響力を拡大しようとした。 | 2. 鉄製農具や須恵器の製作技術を独占し、縄文時代から続く狩猟・採集の生活をより豊かにしようとした。 | 3. 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。 | 4. 巨大な前方後円墳を築造するための最新技術を導入し、日本列島全体の統一を早急に成し遂げようとした。 |
|---|--|--|---|
- 問13 3世紀前半の倭（日本）において、邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏に使いを送った背景と、その結果として得られたものについて説明した文として最も適切なものはどれですか。（2015年 岐阜県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 仏教などの新しい文化や技術を取り入れるため、百済を通じて大陸との国交を樹立し、高度な官僚組織を構築しようとした。 | 2. 中国の魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡などを授かることで、自らの権威を国内に示し、統治を安定させようとした。 | 3. 中国の唐から律令制度を導入するために遣唐使を派遣し、天皇を中心とした中央集権国家の仕組みを整えようとした。 | 4. 後漢の皇帝から金印を授かることで、九州北部を中心とした小国の連合を強固なものとし、大陸との交易を独占しようとした。 |
|---|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 銅鐸	弥生時代には、大陸から銅とスズの合金である青銅で作られた道具が伝わりました。銅鐸はその代表例で、つりがねの形をしています。主に近畿地方で多く発見されており、豊作を祈る村の共同体の儀式などで使われたと考えられています。銅鏡は鏡、銅剣や銅矛は武器の形をした青銅器であり、これらも次第に実用具から祭祀用へと変化していきました。
問2	答え 2 親魏倭王	中国の歴史書『魏志』倭人伝には、239年に邪馬台国の卑弥呼が魏に使者を送ったことが記されています。魏の皇帝は卑弥呼に対し、魏と親しい倭の王であることを示す「親魏倭王」の称号と、金印や多数の銅鏡（三角縁神獣鏡など）を授け、彼女の支配権を国際的に認めました。
問3	答え 2 外敵の侵入や攻撃を防ぐため、集落の周囲に深い溝（濠）を掘り、さらに柵を巡らせている。	弥生時代に稲作が普及すると、土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。集落を敵から守るために、周囲に「濠（ほり）」と呼ばれる深い溝を掘ったり、木製の「柵」を立てたりする防御的な構造が取られました。このような集落を「環濠集落」と呼び、佐賀県の吉野ヶ里遺跡はその大規模な例として知られています。
問4	答え 1 魏の皇帝の権威を利用することで、対立していた狗奴国などに対して自国の優位性を示すため	邪馬台国は、南に位置する狗奴国と激しく対立していました。卑弥呼は当時、中国で強大だった魏の皇帝から公式に「倭の王」として認められることで、その権威を背景に国内の統治を固め、対立勢力に対して有利な立場を得ようとしたと考えられています。これは当時の東アジアにおける国際秩序を利用した外交戦略でした。
問5	答え 3 邪馬台国 ― 卑弥呼	2世紀後半から続いた倭国の大きな戦乱を収めるため、複数の小国の王たちによって卑弥呼が女王として擁立されました。この連合勢力が邪馬台国です。1世紀に後漢へ使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは奴国（なこく）の王であり、卑弥呼とは時代や状況が異なります。
問6	答え 4 「魏志」倭人伝	中国の三国時代における「魏」の歴史を記した『三国志』の一部である「魏志」倭人伝には、邪馬台国の女王卑弥呼が魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かったこと、そして彼女の死後に巨大な墳丘墓が造られたことなどが詳細に記述されています。この記述は、その後の日本における古墳文化の成立を考える上でも重要な手がかりとなっています。
問7	答え 4 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため	当時の日本（倭）は多くの小国が争っている状態でしたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合をまとめ、中国の強大な王朝である魏に朝貢しました。魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印を授かることで、中国という後ろ盾があることを他の国々に見せつけ、国内の統治を有利に進めようとする外交上の狙いがありました。
問8	答え 3 稲作が始まり、余剰生産物や土地・水をめぐる集落間の争いが激しくなったため。	縄文時代から弥生時代にかけて、大陸から稲作が伝わったことで社会は大きく変化しました。米という貯蔵可能な余剰生産物が生まれたことで貧富の差が生じ、水田に欠かせない土地や水を奪い合う「戦争」が頻発するようになりました。吉野ヶ里遺跡に見られる濠や柵、物見やぐらといった設備は、こうした争いに備えた防御施設としての役割を持っていました。
問9	答え 1 「後漢書」東夷伝	紀元57年に倭の奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かったという出来事は、中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記されています。3世紀の邪馬台国や卑弥呼について記された『魏志』倭人伝（『三国志』の一部）と混同しやすいため、時代背景と歴史書の対応を正確に理解しておく必要があります。
問10	答え 1 稲作の豊穰などを願うための祭祀の道具として用いられた	弥生時代の金属器には役割分担がありました。鉄器は硬くて鋭いため、武器や農具などの実用的な道具として使われました。一方で、青銅器は加工しやすく美しい光沢を持つため、神をまつる儀式や村の行事で使われる祭祀具（宝物）として発展しました。
問11	答え 3 吉野ヶ里遺跡	弥生時代に現在の佐賀県に築かれた、大規模な環濠集落（かんごうしゅうらく）の跡です。物見やぐらや二重の濠、大規模な墳丘墓などが発見されており、クニの成立過程や大陸との交流を研究する上で極めて重要な遺跡です。静岡県登呂遺跡や青森県三内丸山遺跡とは所在地や時代、特徴が異なります。
問12	答え 3 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。	弥生時代の日本では、稲作の普及に伴って貧富の差や対立が生まれ、各地に小国が形成されました。1世紀の57年、倭の奴国の王は中国（後漢）の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられました。これは、当時文明の進んでいた中国の皇帝に認められることで、他の小国に対する優位性を保ち、自らの支配権を強化する狙いがありました。選択肢にある鉄製農具や須恵器の普及、前方後円墳の築造は後の時代の特徴であり、土偶は縄文時代の文化です。
問13	答え 2 中国の魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡などを授かることで、自らの権威を国内に示し、統治を安定させようとした。	当時の日本には文字による自国の記録がなかったため、中国の歴史書である『魏志倭人伝』が貴重な史料となります。卑弥呼は中国の三国時代における「魏」へ朝貢し、皇帝から認められることで、国内における政治的・宗教的な権威を高める狙いがありました。授けられた「親魏倭王」という称号や、当時の宝物であった銅鏡は、その権威を裏付ける象徴となりました。

- 問1 弥生時代から江戸時代までの外交上の主なできごとを整理した記録において、3世紀に邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった目的や背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 富山県公立入試 類似)
- 先進的な仏教文化や律令制度を日本に導入し、天皇を中心とした中央集権国家の基盤を早急に固めるため。
 - 朝鮮半島南部での鉄資源の確保を目的として、中国の王朝と軍事同盟を結び、高句麗や百済に対抗するため。
 - 中国の強力な王朝との外交関係を築き、その権威を背景に国内の統治を安定させ、周辺諸国との関係を有利に進めるため。
 - 「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かることで、北九州の奴国を中心とした小国の連合体を統一し、女王の地位を証明するため。
- 問2 福岡県などで出土した、表面が滑らかで機能的な形をした壺型の土器について、その形状や性質が変化した背景として最も適切なものはどれか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
- 稲作が普及したことで、収穫した食料の貯蔵や煮炊きといった生活道具としての使いやすさが重視されるようになったから。
 - 青銅器や鉄器が普及したことで土器が使われなくなり、儀式用の飾りとしてのみ作られるようになったから。
 - 大陸から伝わった仏教の影響により、華美な装飾を避けて質素な道具を作ることが社会の決まりとなったから。
 - 狩猟や採集を中心とした移動生活に耐えられるよう、衝撃を吸収するためにあえて厚手に作る技術が途絶えたから。
- 問3 弥生時代の文化を象徴する遺物である「銅鐸」について、その使用目的や出土傾向を正しく説明しているものはどれか。 (2024年 京都府公立入試 類似)
- 縄文時代から続く伝統的な風習において、死者を埋葬する際に手足に装着する装身具として使われた。
 - 実際の戦いや狩猟で使用するための実戦的な武器として、東日本を中心に広く普及した。
 - 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。
 - 最新の農耕技術を伝えるための工具として、兵庫県や島根県などの沿岸部のみで限定的に使用された。
- 問4 紀元前後の日本（倭）が100余りの小国に分かれていた時代、現在の福岡県付近にあった「奴国」の王が使者を派遣し、皇帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられたとされる中国の王朝を選びなさい。 (2016年 大阪府公立入試 類似)
- 宋
 - 漢
 - 元
 - 唐
- 問5 弥生時代の集落において、収穫した稲を保存するために造られた「高床倉庫」について、床を高く設計した主な目的として最も適切な説明を選びなさい。 (2021年 岡山県公立入試 類似)
- 洪水による浸水を防ぐために、海岸沿いの低湿地に集落の全ての建物を配置する必要があったため。
 - 夏の暑さをしのぐために、地面に深い穴を掘って室内の温度を一定に保つため。
 - 床下の通気性を高めて湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害虫が侵入するのを防ぐため。
 - 敵からの攻撃をいち早く発見するために、建物全体を物見櫓（ものみやぐら）として活用するため。
- 問6 邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏（ぎ）へ使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、多数の銅鏡を授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
- 魏の強力な軍事力を日本に直接呼び寄せ、九州地方の反乱勢力を武力で鎮圧するため
 - 魏の優れた律令制度をそのまま日本に導入し、中央集権国家をいち早く確立するため
 - 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため
 - 魏と共同で朝鮮半島の高句麗を攻撃し、領土を拡大するための軍事同盟を結ぶため
- 問7 福岡県などの遺跡から出土した、中央につまみがあり周囲に精密な文様が施された円形の銅鏡について、この道具が当時の社会で果たしていた役割として正しく述べているものはどれですか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
- 文字を刻んで記録を残すための記録媒体として、役所などで管理されていた
 - 身分を問わず、弥生時代の全ての人々が護身用の盾として日常的に持ち歩いた
 - 非常に硬い性質を持っていたため、山林を切り拓くための斧として全国で普及した
 - 光を反射させる性質を利用し、強力な権威を持つ者が自らの地位を象徴する宝物とした
- 問8 弥生時代に始まった、青銅器と鉄器の使い分けに関する背景について、正しい説明はどれですか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
- 石器から鉄器への移行を嫌った指導者たちが、妥協案として青銅器を儀式に導入した
 - 青銅器は弥生時代の中頃に全て回収され、その原料はすべて鉄器の製造に再利用された
 - 青銅は鉄よりも耐久性に優れていたため、大規模な土木工事の道具としてのみ使われた
 - 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭祀や権威の象徴に特化していった
- 問9 江戸時代に志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印や、3世紀の歴史書に記された卑弥呼が「親魏倭王」の称号を授かったという記述は、当時の日本と中国のどのような関係を示していますか。 (2021年 茨城県公立入試 類似)
- 中国の皇帝が日本の優れた統治体制に学び、日本の王に中国の政治顧問を依頼した関係
 - 日本と中国が対等な立場での自由貿易を約束し、称号の交換を経済的な儀礼とした関係
 - 日本が中国の王朝に対して軍事的な圧力をかけ、金印や称号を無理やり奪い取った関係
 - 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係
- 問10 弥生時代における「青銅器」と「鉄器」の使われ方の違いについて説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 大阪府公立入試 類似)
- 鉄器も青銅器も、ともに稲作を効率化するための農具としてのみ、実用的に普及した。
 - 鉄器は武器や農具などの実用的な道具として用いられ、青銅器は祭りや儀式のための宝物として用いられた。
 - 青銅器は武器や農具などの実用的な道具として用いられ、鉄器は祭りや儀式のための宝物として用いられた。
 - 鉄器は縄文時代から日本列島で独自に作られていたが、青銅器は弥生時代になって初めて大陸から伝わった。
- 問11 3世紀の中国の歴史書には、当時の倭（日本）の様子が詳しく記されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が亡くなった際、直径100余歩（約150メートル）もの大きな塚が造られ、100人余りの奴隷と一緒に埋められたといった、当時の社会の様子や埋葬の風習を伝えている資料の名称を選びなさい。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
- 「魏志」倭人伝
 - 「後漢書」東夷伝
 - 「隋書」倭国伝
 - 「漢書」地理志
- 問12 弥生時代に大陸から稲作とともに伝えられた金属器のうち、強度が非常に高く、主に武器や工具、木製農具の刃先などの実用的な道具として用いられたものはどれですか。 (2023年 大阪府公立入試 類似)
- 打製石器
 - 磨製石器
 - 青銅器
 - 鉄器

答え合わせ・解説

問1	答え 3 中国の強力な王朝との外交関係を築き、その権威を背景に国内の統治を安定させ、周辺諸国との関係を有利に進めるため。	当時の倭（日本）では多くの小国が争っていましたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合体をまとめるため、中国の「魏」という大国の威光を利用しました。中国の皇帝から正式に「王」としての称号を授かることは、国内における支配の正当性を高める強力な武器となりました。1世紀の「漢委奴国王」の金印（後漢へ派遣）や、後の時代の仏教伝来、朝鮮半島への出兵とは時代や背景が異なる点を見極める必要があります。
問2	答え 1 稲作が普及したことで、収穫した食料の貯蔵や煮炊きといった生活道具としての使いやすさが重視されるようになったから。	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した穀物を保存するための「壺」や、煮炊きのための「甕（かめ）」、盛り付けのための「高杯（たかつき）」など、用途に応じた器が作られました。そのため、縄文土器のような装飾性よりも、薄くて軽く、用途に適した機能的な形状へと進化しました。
問3	答え 3 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。	青銅器はもともと大陸では武器や工具として使われていたが、日本に伝わると祭祀用の道具（祭器）として大型化・薄肉化した。銅鐸はその代表例であり、出土数の統計においても兵庫県、島根県、徳島県に次いで、滋賀県や和歌山県といった近畿圏で多く見つかったことが特徴である。
問4	答え 2 漢	紀元前1世紀ごろ、倭（日本）は100余りの国に分かれていました。1世紀半ば（紀元57年）には、その中の一つである奴国の王が中国の王朝である漢（後漢）に使者を送り、皇帝（光武帝）から金印を授かりました。この事実は中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記録されています。
問5	答え 3 床下の通気性を高めて湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害虫が侵入するのを防ぐため。	稲作が本格化した弥生時代には、収穫物を長期間保存する技術が不可欠となりました。高床倉庫は、床を高くすることで風通しを良くして湿気による稲の腐敗を防ぎ、さらに柱の上の部分に「ねずみ返し」と呼ばれる板を取り付けることで、食料を食い荒らすネズミの侵入を防ぐ工夫が施されていました。
問6	答え 3 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため	卑弥呼が魏に朝貢したのは、当時アジアで強大な勢力を持っていた中国の皇帝から「王」として認められることで、国内の他の勢力に対して自分の正当性を示す目的がありました。金印や銅鏡といった贈り物は、その権威を視覚的に周囲へ誇示するための重要な道具として利用されました。
問7	答え 4 光を反射させる性質を利用し、強力な権威を持つ者が自らの地位を象徴する宝物とした	青銅器の一種である銅鏡は、当時の高度な技術によって精密な文様が施されており、その希少性から特定の有力な指導者の持ち物であったと考えられています。このような貴重な金属器を所有し、祭祀などで用いることは、指導者が超自然的な力や大陸とのつながりを持っていることを周囲に示すことになり、その地位の正当性を裏付ける役割を果たしていました。
問8	答え 4 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった	弥生時代の日本において、金属器は「実用の鉄」と「祭祀の青銅」という二面的な使い分けがなされていました。稲作の普及に伴って集団が大きくなると、人々をまとめ上げるための儀式や、その集団の頂点に立つ指導者の権威が必要となりました。そのため、美しく加工しやすい青銅器は、実用性よりも、見る人を圧倒するような象徴的な価値を求められるようになったのが大きな背景です。
問9	答え 4 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係	1世紀には奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かり、3世紀には邪馬台国の卑弥呼が魏から「親魏倭王」の称号と金印などを授かりました。これらは、中国の皇帝から「位」を認めてもらうことで、国内の他の勢力に対して自らの権威を誇示しようとした外交の形を証明しています。
問10	答え 2 鉄器は武器や農具などの実用的な道具として用いられ、青銅器は祭りや儀式のための宝物として用いられた。	弥生時代に伝来した二種類の金属器は、硬度の違いによって用途が明確に分かれていました。鉄は非常に硬く、鋭い刃先を保つことができるため実用具に向いていました。一方、青銅は鉄に比べると脆いものの、鑄造が容易で美しい光沢を持つため、銅鏡や銅鐸、銅剣といった祭祀（まつり）や権威を示すための道具として利用されました。
問11	答え 1 「魏志」倭人伝	中国の三国時代における「魏」の歴史を記した『三国志』の一部である「魏志」倭人伝には、邪馬台国の女王卑弥呼が魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かったこと、そして彼女の死後に巨大な墳丘墓が造られたことなどが詳細に記述されています。この記述は、その後の日本における古墳文化の成立を考える上でも重要な手がかりとなっています。
問12	答え 4 鉄器	弥生時代には大陸から鉄器と青銅器という二種類の金属器が同時に伝わりました。青銅器が祭祀（祭り）や儀式のための道具として用いられたのに対し、鉄器は硬度が高く鋭い刃物を作ることができたため、戦いのための武器や、木材を加工する工具、開墾効率を高めるための農具の刃先として幅広く活用されました。

- 問1 弥生時代の祭祀で使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 滋賀県公立入試 類似)
- 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する工具として使われた。
 - 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。
 - 土でつくられ、古墳の周囲に並べることで死者の霊を慰める役割を果たした。
 - 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。
- 問2 表面に当時の生活の様子や動植物、流水文などの模様が描かれ、上部に「鈕（ちゅう）」と呼ばれる持ち手のような部分がついている、弥生時代の祭祀用青銅器の名称は何か。 (2026年 新潟県公立入試 類似)
- 銅鐸
 - 埴輪
 - 銅矛
 - 銅戈
- 問3 3世紀の倭（日本）において、邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏へ使節を送った際、皇帝から授かったとされる称号と、その証として贈られたものの組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2019年 広島県公立入試 類似)
- 倭王の称号と、仏教の経典や寺院の設計図
 - 親魏倭王の称号と、金印や百枚の銅鏡
 - 大王の称号と、鉄製の武器や農具
 - 漢委奴国王の称号と、金印
- 問4 弥生時代に製作された青銅器の一種で、兵庫県の五十六点や島根県の五十四点をはじめ、滋賀県や和歌山県といった近畿地方の府県で多くの出土が確認されている、豊作を祈るなどの祭礼に用いられた道具を何というか。 (2024年 京都府公立入試 類似)
- 勾玉
 - 銅矛
 - 石包丁
 - 銅鐸
- 問5 弥生時代の食生活の変化をまとめた資料では、この時期に稲作が広まったことが記されています。これと同じ時代、1世紀の日本の様子について述べた、中国の歴史書『後漢書』東夷伝の内容として正しいものを選びなさい。 (2022年 広島県公立入試 類似)
- 推古天皇の使者として小野妹子が隋に渡り、対等な外交を求めた。
 - 倭の奴国の王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を授けられた。
 - 倭の五王が中国の南朝に使者を送り、朝鮮半島での軍事的地位を認めさせた。
 - 卑弥呼が魏の皇帝に使いを送り、「親魏倭王」の称号と金印を授けられた。
- 問6 弥生時代の社会において、大陸から伝わった「青銅器」と「鉄器」の使い分けに関する説明として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 長崎県公立入試 類似)
- 青銅器は主に通貨として流通し、鉄器は主に古墳の副葬品としてのみ使われた。
 - 青銅器は祭りの道具として用いられ、鉄器は工具や農具として用いられた。
 - 青銅器は書院造のような武家の住居を飾る装飾品として用いられた。
 - 青銅器は鋭い切れ味を活かして農具に、鉄器は祭りの楽器に用いられた。
- 問7 弥生時代に朝鮮半島から稲作が伝来したことで、縄文時代とは異なる社会状況が生まれました。生産力の向上や定住生活に伴って発生した出来事について、適切に説明しているものはどれですか。 (2023年 茨城県公立入試 類似)
- 冠位十二階が定められ、個人の才能や功績に応じて役職が与えられた。
 - 狩猟や採集が中心の生活となり、人々は獲物を求めて常に移動し続けた。
 - 収穫した稲の分配や土地の所有をめぐる、むら同士の争いが発生した。
 - 仏教が伝来し、各地で大規模な寺院の建設が始まった。
- 問8 弥生時代の集落で見られる、地面を円形や方形に掘り下げて床を作り、そこに数本の柱を立てて屋根をかけた、当時の人々が生活していた一般的な住居形式を何といいますか。 (2018年 奈良県公立入試 類似)
- たて穴住居
 - 寝殿造
 - 合掌造り
 - 高床倉庫
- 問9 弥生時代に本格的に始まった稲作において、収穫の際に用いられた石包丁の使用方法について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- 土を掘り返して苗を植えるために用いられた
 - 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた
 - 収穫した後の脱穀を行うために用いられた
 - 稲を根元から刈り取るために用いられた
- 問10 3世紀の日本の様子が記された中国の史書『三国志』の「魏志」倭人伝において、約30の国々をまとめ、中国の魏に使いを送ったとされる邪馬台国の女王は誰ですか。 (2025年 長野県公立入試 類似)
- 推古天皇
 - 持統天皇
 - 北条政子
 - 卑弥呼
- 問11 邪馬台国の女王卑弥呼に関する記述として、最も適当なものはどれか。 (2016年 北海道公立入試 類似)
- 夫である天皇の死後、軍を率いて朝鮮半島へ出兵したという伝説がある。
 - 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。
 - 日本で初めて本格的な都城である藤原京を造営し、国家体制を整えた。
 - 摂政である聖徳太子とともに、冠位十二階や十七条の憲法を定めた。
- 問12 日本列島と朝鮮半島の位置関係を示した地図において、九州地方の北部（現在の佐賀県付近）に位置し、大陸との交流や当時の防御の様子を今に伝える弥生時代の代表的な遺跡はどれか、選びなさい。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
- 吉野ヶ里遺跡
 - 登呂遺跡
 - 三内丸山遺跡
 - 岩宿遺跡
- 問13 弥生時代に大陸から稲作とともに伝わった青銅器のうち、表面に幾何学模様や当時の生活・自然の様子が描かれ、釣鐘のような独特の形状をしている道具の主な用途として最も適切なものを選びなさい。 (2023年 三重県公立入試 類似)
- 豊作などを祈るための祭りの道具
 - 土を耕し田植えをするための農業用の道具
 - 獲物を捕らえたり身を守ったりするための狩りの道具
 - 食料を保存し煮炊きをするための道具
- 問14 古代日本の生活文化について述べた次の文のうち、衣料に関する記述として正しいものを選びなさい。 (2026年 栃木県公立入試 類似)
- 弥生時代には稲作とともに綿の栽培も伝わり、民衆の服の多くは綿製であった。
 - 当時の技術では植物繊維を利用することができず、衣服のすべてが動物の皮で作られていた。
 - 古代の日本列島では乾燥した気候を活かした羊の飼育が盛んで、羊毛が主な原料だった。
 - 古墳時代の有力者は、麻のほかに絹を用いた衣服を身につけることもあった。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。	釣鐘型の青銅器は「銅鐸（どうたく）」と呼ばれます。その表面には、鹿を狩る様子や稲作の風景、高床倉庫などが描かれていることがあり、当時の生活を知るための貴重な資料となっています。古墳時代に作られた埴輪や、実用的な武器としての鉄器とは役割が明確に異なります。
問2	答え 1 銅鐸	銅鐸は、その形状から「鐘」のような役割を持っていたと推測されています。初期のものは音を鳴らすために小規模でしたが、時代が下るにつれて大型化し、村の祭りで見せるための宝物としての性格を強めていきました。
問3	答え 2 親魏倭王の称号と、金印や百枚の銅鏡	卑弥呼は239年に中国の魏へ使節を派遣しました。当時の中国は魏・呉・蜀が並立する三国時代であり、卑弥呼は北方の魏と結ぶことで外交的な後ろ盾を得ようとしていました。魏の皇帝はこれに応え、「親魏倭王」の称号とともに、その権威を象徴する金印や、当時の日本列島では希少だった銅鏡などを授けました。
問4	答え 4 銅鐸	弥生時代には、大陸から青銅器の技術が伝わり、日本では主に祭りの道具として独自に発展した。銅鐸は近畿地方を中心に、四国や中国地方からも多く発見されており、稲作の豊作を願う儀式などで使われたと考えられている。選択肢にある銅矛も青銅器だが、これらは九州地方を中心に多く出土する傾向がある。
問5	答え 2 倭の奴国の王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を授けられた。	紀元1世紀、現在の福岡県付近にあったとされる「奴国」の王は、後漢の光武帝に使者を送りました。その事実は、江戸時代に志賀島（福岡県）で「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見されたことによって裏付けられています。3世紀の卑弥呼（魏志倭人伝）、5世紀の倭の五王（宋書）、7世紀の遣隋使（隋書）など、中国のどの王朝の時代に、誰がどのような目的で交渉したかを区別することが重要です。
問6	答え 2 青銅器は祭りの道具として用いられ、鉄器は工具や農具として用いられた。	弥生時代には青銅器と鉄器がほぼ同時に伝わりました。鉄は非常に硬いため、木を加工する工具や、土を掘り返す農具、実戦用の武器などの実用的な用途に主に使われました。一方で青銅は鉄よりも柔らかいため、銅鐸、銅剣、銅矛などのように、神を祀る儀式や祭りの道具として象徴的に使われるようになりました。
問7	答え 3 収穫した稲の分配や土地の所有をめぐる、むら同士の争いが発生した。	稲作の開始により、安定した食料生産が可能になり定住が進んだ一方で、水利権や肥沃な土地、蓄えられた稲をめぐる対立が生まれました。当時の遺跡からは、戦いに備えて集落の周囲に深い堀を巡らせた「環濠集落」や、木製の武器、矢じりが刺さった人骨などが発見されており、組織的な紛争があったことが分かります。
問8	答え 1 たて穴住居	弥生時代の集落において、人々の生活の場として最も一般的だったのがこの住居形式です。地面を掘り下げることで断熱効果を高めていたと考えられており、縄文時代から継続して用いられました。地面を掘り下げて床にする構造がその名称の由来となっています。
問9	答え 2 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた	弥生時代前期の収穫方法である「穂首刈り」に関する問いです。当時は稲が実る時期が一定ではなかったため、実った稲の穂だけを一つずつ石包丁で摘み取っていました。根元から刈り取る方式は、後に鉄製の鎌が普及するまで一般的ではありませんでした。
問10	答え 4 卑弥呼	3世紀の日本（倭）では、多くの小国が争っていましたが、邪馬台国の女王である卑弥呼が呪術的な力を背景にこれらをまとめ上げました。彼女は239年に中国の魏へ使者を送り、外交関係を築いたことが『魏志倭人伝』に記録されています。
問11	答え 2 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。	『魏志』倭人伝には、卑弥呼が239年に魏へ使いを送り、その返礼として金印や銅鏡100枚を与えられたと記されています。他の選択肢は、それぞれ推古天皇、持統天皇、神功皇后に関連する内容であり、卑弥呼の事績ではありません。
問12	答え 1 吉野ヶ里遺跡	弥生時代に現在の佐賀県に築かれた、大規模な環濠集落（かんごうしゅうらく）の跡です。物見やぐらや二重の濠、大規模な墳丘墓などが発見されており、クニの成立過程や大陸との交流を研究する上で極めて重要な遺跡です。静岡県登呂遺跡や青森県三内丸山遺跡とは所在地や時代、特徴が異なります。
問13	答え 1 豊作などを祈るための祭りの道具	銅鐸は、弥生時代に青銅鏡や青銅器などとともに大陸から伝えられた青銅器の一種です。当初は音を鳴らすための実用的な鈴としての側面もありましたが、日本で発展するにつれて大型化し、集落の共同体で豊作を祈るなどの祭祀（まつり）に使用される宝器としての役割が強まりました。
問14	答え 4 古墳時代の有力者は、麻のほかに絹を用いた衣服を身につけることもあった。	弥生時代や古墳時代には、すでに麻や絹を織る技術が存在していました。特に身分の高い人物は、貴重な絹を用いた衣服を着用していたことが遺跡の出土品などから確認されています。綿（木綿）や羊毛（ウール）が日本の衣料の主流となるのは、中世以降や近代になってからのことです。

- 問1 弥生時代における「ムラ同士の争い」は、その後の日本の社会構造にどのような変化をもたらしましたか。当時の社会の流れとして最も適切な説明を選びなさい。（2024年 北海道公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 争いを鎮めるために、各集落が完全に独立したまま交流を断つ鎖国のような状態になった | 2. 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された | 3. すべての人が平等に食料を分配する仕組みが作られ、身分の差が完全になくなった | 4. 争いを避けるために人々が再び移動生活に戻り、定住する集落が一時的に消滅した |
|---|---|--|--|
- 問2 古代における農具の改良について、木製農具の先に鉄の刃先を取り付けるようになった目的と、その結果として生じた変化について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 富山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---------------------------------------|--|
| 1. すべての農具を鉄のみで製造することで、木材資源の消費を抑え森林を保護した | 2. 石包丁の使用を継続しつつ、木製農具の強度を補うことで穂首刈りの効率を上げた | 3. 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した | 4. 灌漑用水を確保するために、大規模な土木工事専用の石造りの道具を開発した |
|---|--|---------------------------------------|--|
- 問3 3世紀に邪馬台国の卑弥呼が、中国の魏へ使節を送り「親魏倭王」の称号や銅鏡などを得た背景について、当時の日本の状況を踏まえた説明として正しいものはどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 中国が日本に対して朝貢を強制し、従わない場合は貿易を禁止すると通告してきたため | 2. 日本の優れた絹織物を中国全土に普及させ、大陸での市場独占権を皇帝に認めてもらうため | 3. 国内の諸勢力が争う中で、中国という大国の後盾を得ることで自らの権威を高める必要があったため | 4. 魏の軍勢力を直接日本に呼び寄せ、反対勢力を武力で一掃して一気に領土を拡大しようとしたため |
|--|--|--|---|
- 問4 弥生時代の3世紀、邪馬台国の卑弥呼が中国の「魏」に対して使いを送った目的と、その結果として当時の国際情勢から読み取れる背景として最も適切なものはどれか。（2017年 東京都公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 全国的な徴税制度である大宝律令を確立させるために、中国から法制度の専門家を招いて政治改革を推進した。 | 2. 日宋貿易を円滑に進めるために、大輪田泊のような港湾施設を整備して中国との経済的な結びつきを重視した。 | 3. 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。 | 4. 隋の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、小野妹子を派遣して「日出づる処の天子」という国書を届けさせた。 |
|---|---|---|---|
- 問5 弥生時代、ムラ同士の争いに備え、集落の周囲に深い濠（ほり）や柵を巡らせた集落が見られるようになりました。このような特徴を持つ集落の名称として正しいものを、次の中から選びなさい。（2022年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 1. 門前町 | 2. 竪穴住居 | 3. 環濠集落 | 4. 高床倉庫 |
|--------|---------|---------|---------|
- 問6 表面に当時の生活の様子や動植物、流水文などの模様が描かれ、上部に「鈕（ちゅう）」と呼ばれる持ち手のような部分がついている、弥生時代の祭祀用青銅器の名称は何か。（2026年 新潟県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 埴輪 | 2. 銅戈 | 3. 銅鐸 | 4. 銅矛 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問7 弥生時代には青銅器と鉄器がほぼ同時に日本列島へ伝わりました。それぞれの金属器が果たした役割の違いについて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 鉄器は定期市での取引を円滑にするために使われ、青銅器はイスラム教の礼拝の道具として使われた | 2. 青銅器は加工のしやすさを活かして農具や工具として普及し、鉄器は主に祭りの道具として使われた | 3. 青銅器は前方後円墳に埋葬するための副葬品として作られ、鉄器は神社の建築のために使われた | 4. 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた |
|--|--|--|---|
- 問8 大陸から稲作の技術が伝わったことで、人々の生活や集落の様子は大きく変化しました。この時期の集落において、収穫した食料を管理・保存するために設けられた特徴的な施設として適切な名称を選びなさい。（2021年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 前方後円墳 | 2. 環濠集落 | 3. 竪穴住居 | 4. 高床倉庫 |
|----------|---------|---------|---------|
- 問9 「漢書」地理志や「魏志」倭人伝などの中国の歴史書には、倭の女王である卑弥呼や、それ以前の倭の小国の王が、中国の皇帝に使節を送ったことが記されています。このような古代の日中外交において、日本の支配者が中国の皇帝から称号を授かろうとした主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 宮崎県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 中国の皇帝と対等な立場で軍事同盟を結び、高句麗や新羅を共同で攻撃するための約束を取り付けるため。 | 2. 中国国内でのキリスト教の布教を許可してもらい、宗教的な指導者としての地位を確立するため。 | 3. 中国の強力な武力や権威を背景に、日本国内の他の勢力に対して自らの支配の正当性を示すため。 | 4. 中国の皇帝から直接的に領土を譲り受け、日本列島を中国の行政区画の一部として統治するため。 |
|---|---|---|---|
- 問10 弥生時代に大陸から伝わった技術や文化が、当時の社会に与えた影響を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2022年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 青銅器が実用的な農具として普及したことで、開墾が進み全国的な統一国家が誕生した。 | 2. 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。 | 3. 狩猟や採集がより効率的になり、人々は移動を繰り返しながら竪穴住居に住んだ。 | 4. 巨大な前方後円墳を築くための高い土木技術が伝わり、各地に大規模な古墳が作られた。 |
|---|---|--|---|
- 問11 中国の歴史書『魏志倭人伝』の中で、邪馬台国の女王が即位した経緯や背景について説明した一節があります。その内容として最も適切な説明を次から選びなさい。（2026年 岐阜県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. それまでの世襲制を廃止し、中国の皇帝による直接的な任命によって、最も外交能力の高い女子を王とした。 | 2. 大規模な干ばつや飢饉が続いたため、農業の神に仕える特別な血筋を持つ女子を王とした。 | 3. もともと男子を王としていたが、国の中が乱れて数年も互いに攻め合ったため、一人の女子を王とした。 | 4. 仏教の教えを広めることで民衆の心を安定させるため、優れた徳を持つ女子が大陸から招かれて王となった。 |
|--|--|--|--|
- 問12 1世紀に倭の奴国の王が中国の後漢へ使節を送り、光武帝から金印を授かった背景として、当時の小国の王たちの目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 大阪府公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---------------------------------------|
| 1. 中国からの軍事支援を直接受け、近隣諸国を武力で一気に統一しようと考えたため。 | 2. 遣隋使や遣唐使のように、進んだ律令制度を学び取り、日本独自の憲法を制定するため。 | 3. 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。 | 4. 仏教などの新しい宗教を中国から導入し、国民の精神的な団結を図るため。 |
|---|---|--|---------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された	土地や水をめぐる争いは、勝利した集落が敗北した集落を吸収・統合するプロセスでもありました。これにより、複数の「ムラ」が統合されて「クニ」へと大規模化し、その中心に王のような強力な指導者が現れることで、初期の国家形成へとつながっていきました。
問2	答え 3 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した	鉄の刃先を装着することで、従来の木製のみの農具では難しかった硬い土壌を深く掘り起こす（深耕）ことが可能になりました。これにより土壌の養分が有効に活用され、農業生産力が大幅に向上しました。石包丁から鉄鎌への変化なども含め、鉄の普及は収穫量の増大と社会の余剰生産物の蓄積に直結しました。
問3	答え 3 国内の諸勢力が争う中で、中国という大国の後ろ盾を得ることで自らの権威を高める必要があったため	当時の日本（倭）は、多くの小国が対立し合う「倭国大乱」を経て、女王卑弥呼による連合体である邪馬台国が形成された時期でした。依然として国内には対立勢力が存在していたため、卑弥呼は圧倒的な文化と武力を持つ魏の皇帝から「倭王」として認められることで、自らの統治能力と地位を盤石にしようと考えました。
問4	答え 3 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。	当時の東アジアでは、中国の皇帝に朝貢して臣下としての称号を受けることで、周辺諸国の王が自らの地位を保証してもらう「冊封（さくほう）」という仕組みがありました。多くの小国が対立していた弥生時代の日本（倭）において、卑弥呼が強力な「魏」の皇帝から「親魏倭王」の称号を得たことは、他の勢力に対して自らの権威を示す強力な武器となりました。聖徳太子が隋に対して対等な外交を試みたのは後の7世紀の出来事であり、卑弥呼の時代はまだ中国を中心とした秩序を利用して国内統治を安定させようとしていた段階にあたります。
問5	答え 3 環濠集落	稲作が広まった弥生時代には、土地や水をめぐる争い（戦争）が頻繁に起こるようになりました。集落を守るために、周囲に深い「濠（ほり）」を掘り、その内側に「柵」を立てるといった防御設備を持つ「環濠集落」が各地で作られました。
問6	答え 3 銅鐸	銅鐸は、その形状から「鐘」のような役割を持っていたと推測されています。初期のものは音を鳴らすために小規模でしたが、時代が下るにつれて大型化し、村の祭りで見せるための宝物としての性格が強めていきました。
問7	答え 4 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた	鉄は青銅よりも硬くて丈夫であるため、木製農具の先を補強する工具や、鋭利な刃物としての武器といった実用的な道具に用いられました。一方で、青銅器は独特の光沢を持つことから権威の象徴や祭りにおける神聖な道具としての性格を強め、鉄器と青銅器で「実用」と「儀礼」という役割の分担がなされました。
問8	答え 4 高床倉庫	弥生時代に稲作が普及すると、人々は安定して食料を得られるようになり、定住生活が進みました。これに伴い、余剰となった収穫物を保存する専用の施設が必要となり、高床倉庫が作られるようになりました。住居として使われた地面を掘り下げた構造の「竪穴住居」とは、その役割と構造が明確に区別されています。
問9	答え 3 中国の強力な武力や権威を背景に、日本国内の他の勢力に対して自らの支配の正当性を示すため。	当時の日本（倭）は多くの小国が並立しており、各勢力の首長は自らの支配力を誇示し、国内を安定させる必要がありました。先進文化を持つ中国（漢や魏など）の皇帝から「親魏倭王」のような称号や金印を授かることは、周辺勢力に対して「自分こそが正当な統治者である」と主張するための強力な裏付けとなりました。
問10	答え 2 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。	稲作の開始は、単なる食生活の変化にとどまらず、社会構造に劇的な変化をもたらしました。収穫した米を蓄えることで余剰生産物が生まれ、それを管理・所有する層が現れたことで、貧富の差や身分の違い（階級）が生じました。その結果、小国を治める王のような強力な指導者が登場し、中国の歴史書にある「100余りの国」のような政治的なまとまりが形成される要因となりました。なお、青銅器は主に祭祀用であり、実用的な農具は鉄器が担いました。
問11	答え 3 もともと男子を王としていたが、国の中が乱れて数年も互いに攻め合ったため、一人の女子を王とした。	史料には「その国、本また男子を以て王となし、住まること七、八十年。倭国乱れ、相攻伐すること歴年、乃ち共に一女子を立てて王となす」という記述があります。これは、2世紀後半に起こったとされる「倭国大乱」という戦乱状態を収拾するために、呪術的な権威を持つ卑弥呼を王に立てることで、諸国の連合体としての安定を図ったことを示しています。
問12	答え 3 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。	当時の日本（倭）は100余りの小国に分かれて対立しており、奴国のような小国の王は、強大な勢力を持つ中国（後漢）の皇帝に朝貢（貢物を届けること）して「臣下」としての形をとることで、自らの支配の正当性や地位を国際的に裏付けてもらおうとしました。福岡県の志賀島で見つかった金印は、このような当時の国際関係（冊封体制）の実態を象徴する資料です。

- 問1 弥生時代の国際関係についてまとめた学習表において、1世紀に「奴国の王」が後漢の光武帝から授けられたとされる「金印」が、実際に見つかった場所として正しいものはどれですか。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
1. 奈良県の纏向遺跡 2. 福岡県の志賀島 3. 佐賀県の吉野ヶ里遺跡 4. 大阪府の大仙陵古墳
- 問2 弥生時代に稲作が広まったことで、土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。集落を外敵からの攻撃から守るために、周囲に深い堀を掘り、木の柵を設置した集落を何と呼びますか。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
1. 高床倉庫 2. 三内丸山遺跡 3. 環濠集落 4. 石舞台古墳
- 問3 弥生時代の代表的な遺跡である佐賀県の吉野ヶ里遺跡では、集落の周囲に深い壕（ほり）や木製の柵が巡らされ、高床倉庫や物見櫓などが計画的に配置されています。このような、外敵や野生動物の侵入を防ぐために周囲を囲んだ集落の形態を何と呼びますか。 (2025年 群馬県公立入試 類似)
1. 寝殿造 2. 門前町 3. 国府 4. 環濠集落
- 問4 弥生時代に大陸から伝わった技術や文化が、当時の社会に与えた影響を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 巨大な前方後円墳を築くための高い土木技術が伝わり、各地に大規模な古墳が作られた。 2. 狩猟や採集がより効率的になり、人々は移動を繰り返しながら竪穴住居に住んだ。 3. 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。 4. 青銅器が実用的な農具として普及したことで、開墾が進み全国的な統一国家が誕生した。
- 問5 九州北部の福岡県付近で発見された弥生土器に象徴される時代には、大陸から青銅器の技術が伝わりました。この青銅器の一つである「銅鐸」は、日本において主にどのような目的で用いられたと考えられていますか。 (2016年 長崎県公立入試 類似)
1. 武士が戦場で敵を攻撃するために使用した、実戦用の武器 2. 大陸との交易において支払いに使われた、和同開珎などの貨幣 3. 脱穀を行う際に使用する、千歯こきなどの農具 4. 豊作などを祈るための、祭りの道具
- 問6 弥生時代に大陸から稲作が伝わり、食料を蓄えることが可能になったことで生じた社会の変化について、最も適切な説明を選んでください。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
1. 表面に縄目の文様がある、厚手で黒褐色の土器が全国的に作られるようになった。 2. 政府から農民へ平等に土地が割り当てられ、収穫した稲を税として納める制度が整った。 3. ナウマン象などの大型動物を狩猟するために、人々は移動を繰り返しながら生活するようになった。 4. 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。
- 問7 邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏（ぎ）へ使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、多数の銅鏡を授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
1. 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため 2. 魏と共同で朝鮮半島の高句麗を攻撃し、領土を拡大するための軍事同盟を結ぶため 3. 魏の強力な軍勢力を日本に直接呼び寄せ、九州地方の反乱勢力を武力で鎮圧するため 4. 魏の優れた律令制度をそのまま日本に導入し、中央集権国家をいち早く確立するため
- 問8 倭の奴国の王が、中国の後漢から金印を授かった紀元1世紀（西暦57年）ごろの世界情勢について、ヨーロッパや地中海周辺の動きを説明したものとして正しいものはどれですか。 (2026年 愛知県公立入試 類似)
1. ギリシャ人が地中海沿岸の各地にポリス（都市国家）を建設し始めた 2. アレクサンドロス大王が東方遠征を行い、ヘレニズム文化が広がっていた 3. 西ローマ帝国が滅亡し、ゲルマン人の大移動が本格化していた 4. 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた
- 問9 弥生時代、大陸から金属器が伝わったことで人々の生活は大きく変化しましたが、当時の「青銅器」の主な用途と代表的な道具の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。 (2018年 大阪府公立入試 類似)
1. 鋭利な刃物として戦闘に用いられ、剣や矛などの武器の主流となった。 2. 祭祀や儀式のための道具として用いられ、銅鐸や銅鏡などが作られた。 3. 頑丈な農具として開墾に用いられ、すきや鍬（くわ）の先などが作られた。 4. 食料を保存・調理するための容器として用いられ、須恵器などが作られた。
- 問10 1世紀半ばに日本の「奴国」の王が中国へ使者を送り、皇帝から金印を授かったという出来事が記されている、当時の中国の歴史書として正しいものを答えなさい。 (2016年 大阪府公立入試 類似)
1. 日本書紀 2. 魏志 3. 史記 4. 後漢書
- 問11 弥生時代、稲作が西日本から東日本へと普及して食糧の蓄えができるようになると、各地で土地や水をめぐる争いが起こり、小さな国々が誕生しました。こうした中、倭の奴国の王が中国の王朝へ使いを送った目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 広島県公立入試 類似)
1. 鉄製農具や須恵器の製作技術を独占し、縄文時代から続く狩猟・採集の生活をより豊かにしようとした。 2. 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。 3. 巨大な前方後円墳を築造するための最新技術を導入し、日本列島全体の統一を早急に成し遂げようとした。 4. 土偶を用いた独自の祭祀を中国に認めてもらうことで、大陸での宗教的な影響力を拡大しようとした。
- 問12 弥生時代の大規模な集落に見られる「環濠集落」について、集落の周囲に深い壕や柵を設けた当時の社会的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 群馬県公立入試 類似)
1. 大規模な洪水や高潮などの自然災害から、住居や高床倉庫が流されるのを防ぐため 2. 大陸から伝わった最新の建築技術を誇示し、周辺の豪族に対して政治的優位を示すため 3. 仏教が伝来したことで、寺院を中心とした聖なる空間を俗世間から区別するため 4. 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため
- 問13 弥生時代に使用された道具とその背景について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
1. 金属器のうち、青銅器は主に木材を加工するための工具として、鉄器は祭祀用の宝物として使い分けられた。 2. 稲作が始まった当初は木製の農具が中心であったが、次第に大陸から伝わった鉄器なども使われるようになった。 3. 収穫の効率を上げるために、鉄製の鎌を用いて稲の根元から刈り取る方式がこの時代に確立した。 4. 牛や馬を農作業に利用する牛馬耕が導入されたことで、大規模な水田開発が全国で一斉に進んだ。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 福岡県の志賀島	1世紀の57年、倭の奴国が中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授かったことが中国の歴史書『後漢書』東夷伝に記されています。この金印は、江戸時代に現在の福岡市にある志賀島で農作業中に偶然発見されました。印面には「漢委奴国王」と刻まれています。
問2	答え 3 環濠集落	弥生時代には、食料の備蓄や土地の所有をめぐる集落間での争いが生じました。そのため、集落の防御機能を高めるために周囲を堀や柵で囲む工夫がなされました。代表的な遺跡として、佐賀県の吉野ヶ里遺跡が有名です。
問3	答え 4 環濠集落	弥生時代に稲作が普及すると、土地や水をめぐって集落同士の争いが起こるようになりました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるこの形態は、集落の周りに壕（溝）を掘ることで、敵の侵入を物理的に防ぐ防衛機能を持っています。一方、選択肢にある国府は飛鳥時代以降の地方行政の中心地、寝殿造は平安時代の貴族の住宅様式を指します。
問4	答え 3 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。	稲作の開始は、単なる食生活の変化にとどまらず、社会構造に劇的な変化をもたらしました。収穫した米を蓄えることで余剰生産物が生まれ、それを管理・所有する層が現れたことで、貧富の差や身分の違い（階級）が生じました。その結果、小国を治める王のような強力な指導者が登場し、中国の歴史書にある「100余りの国」のような政治的なまとまりが形成される要因となりました。なお、青銅器は主に祭祀用であり、実用的な農具は鉄器が担いました。
問5	答え 4 豊作などを祈るための、祭りの道具	弥生時代に大陸から伝わった青銅器は、銅とスズの合金で作られていました。当初は武器としての形を持っていましたが、日本では次第に大型化・薄型化し、実際に使う武器としてではなく、集落の豊作や繁栄を祈るための祭りや儀式的道具（祭祀具）として発展しました。銅鐸は特に近畿地方を中心に多く発見されています。
問6	答え 4 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。	稲作が普及すると、生産力の向上により食料の蓄え（余剰生産物）ができるようになりました。これにより、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれるとともに、稲作に不可欠な土地や水の利権をめぐる集落（ムラ）同士の争いが発生するようになりました。こうした争いを通じて、次第に多くのムラを統合する小国が形成されていきました。
問7	答え 1 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため	卑弥呼が魏に朝貢したのは、当時アジアで強大な勢力を持っていた中国の皇帝から「王」として認められることで、国内の他の勢力に対して自分の正当性を示す目的がありました。金印や銅鏡といった贈り物は、その権威を視覚的に周囲へ誇示するための重要な道具として利用されました。
問8	答え 4 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた	日本が後漢と交渉を持っていた紀元1世紀ごろ、ヨーロッパでは地中海全域を支配するローマ帝国が全盛期を迎えていました。この時期は中国の漢王朝とローマ帝国の間で、シルクロードを通じた間接的な交流が行われていた時代でもあります。ギリシャのポリス建設は紀元前8世紀ごろ、アレクサンドロス大王の遠征は紀元前4世紀ごろの出来事です。
問9	答え 2 祭祀や儀式のための道具として用いられ、銅鐸や銅鏡などが作られた。	弥生時代には鉄器と青銅器がほぼ同時に伝わりましたが、それぞれの金属の特性に応じて使い分けがなされました。鉄器は硬くて鋭いため、武器や農具などの実用品として普及しました。一方、青銅器は美しい光沢を持つことから、神をまつ際の祭具や、村の権威を示すための道具として使われました。
問10	答え 4 後漢書	西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から金印を授かった事実は『後漢書』東夷伝に記されています。江戸時代に志賀島（福岡県）で発見された「漢委奴国王」の金印は、この記述を裏付ける重要な史料となりました。3世紀の卑弥呼について記された『魏志』倭人伝とは時代が異なるため、区別が必要です。
問11	答え 2 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。	弥生時代の日本では、稲作の普及に伴って貧富の差や対立が生まれ、各地に小国が形成されました。1世紀の57年、倭の奴国の王は中国（後漢）の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられました。これは、当時文明の進んでいた中国の皇帝に認められることで、他の小国に対する優位性を保ち、自らの支配権を強化する狙いがありました。選択肢にある鉄製農具や須恵器の普及、前方後円墳の築造は後の時代の特徴であり、土偶は縄文時代の文化です。
問12	答え 4 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため	縄文時代にはあまり見られなかった集落同士の争いは、弥生時代に入り稲作による余剰生産物（富）が生まれたことで発生しました。吉野ヶ里遺跡などの調査からは、集落全体を壕や柵で囲むだけでなく、物見櫓を立てて外敵を監視していた様子も判明しており、当時の社会が非常に緊張感のある状態にあったことを示しています。
問13	答え 2 稲作が始まった当初は木製の農具が中心であったが、次第に大陸から伝わった鉄器なども使われるようになった。	弥生時代には大陸から鉄器と青銅器がほぼ同時に伝わりました。鉄器は主に工具や農具などの実用品として、青銅器は銅鐸や銅鏡のように祭祀・儀式用の宝物として用いられました。稲の収穫には主に石包丁が使われ、穂の部分のみを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。牛馬耕が普及するのは平安時代以降のことです。